

令和 7 年度
学習シラバス
〔第 3 学年〕



八王子市立鋤水中学校

国 語

使用教材	【教科書】 ・伝え合う言葉 中学国語3(教育出版) ・中学書写(教育出版) 【副教材】 ・よくわかる国語の学習3(明治図書) ・新国語の便覧(秀学社) ・例文漢字3(浜島書店) ・3年間の総整理問題集(正進社) ・書初め用紙(手本付き)(文書館)	持ち物	【通常授業】 ・教科書・ノート ・例文漢字・便覧・ワーク ・タブレット 【書写の授業】 ・大筆・小筆・文鎮・硯・下敷・新聞 ・墨汁・ゴミ袋・半紙・2Bの鉛筆
学習の目標	(1) 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようになる。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を身に付け、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようになる。 (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする態度を身に付ける。		
学習の進め方	〈学習の進め方〉 (1) 国語では、文学的文章(小説)、説明的文章(論説)、古典(古文・漢文)、短詩型文学(俳句、短歌、和歌、詩)、文法・漢字等の分野について学習する。 (2) 授業は、主に各クラスの教室で行う。場合によっては、図書室を利用する。 (3) 提示された課題を的確に把握し、自分の考えをもつようにする。 (4) 班活動は、課題に応じて、3～4人班、または5～6人班で意見交換活動、朗読発表、劇発表、意見発表等を行う。班員で建設的な意見を出し、話す力・聞く力を身に付けていく。 (5) 授業で学習したことや配られたプリントを見直す、ワークに取り組む等して復習をするとよい。 (6) 朝読書の時間や昼休みに読書をすることで想像力を広げる、新聞を読むことで見聞を広める等をするといよい。 (7) 学習した内容を、自分の経験や身の周りの生活と結びつけて考えたり、学習を通して興味や疑問をもった内容を調べたりして、理解を深めるとよい。 〈注意すること〉 (1) 授業開始の時刻までに準備を終え、着席する。 (2) 持ち物は忘れないようにする。 (3) 板書されたこと、気付いたこと等はノート等にまとめる。 (4) 先生の話や友達の発表をしっかりと聞くようにする。 (5) プリント、ワーク、クロムブックの課題等の提出は期限を守る。		

学習計画

	月	学習単元	学習内容
一学期	4	1 学びを生かす	・詩 ・話すこと、聞くこと ・随筆 ・小説
	5	2 歴史をひらく	・読書 ・情報メディアと表現
	6	3 論理を築く	・論説 ・書くこと
	7		・漢字 ・文法
二学期	8		・論説 ・書くこと
	9	4 関係を問う	・情報メディアと表現 ・文法
	10	5 古典を伝える	・言葉 ・古文 ・漢文
	11	6 表現を吟味する	・読書 ・言葉
	12	書初め	・俳句 ・詩 ・小説 ・話すこと、聞くこと ・漢字
三学期	1	7 情報を共有する	・総合SDGs ・書くこと
	2	8 未来への言葉	・話すこと、聞くこと ・小説 ・評論
	3		・詩 ・言葉 ・漢字 ・文法

評価の観点と評価方法

評価の観点及びその趣旨		評価方法
知識・技能	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。	提出物の記述内容 小テスト 単元テスト 定期考査
思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を身に付け、社会生活における関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	提出物の記述内容 発表等の内容等 小テスト 単元テスト 定期考査
主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値を認識するとともに、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする態度を身に付けている。	物語、説明文等の感想記述内容 学習の振り返りの記述内容 発表等の内容等

社 会

使用教材	教科書 ・中学 社会公民 とともに生きる(教育出版) ・中学社会歴史 未来をひらく(教育出版) 副教材 ・ビジュアル公民2025(東京法令出版) ・未来へつなぐ 歴史 資料集(新学社) ・3年間の社会の学習(明治図書)	持ち物	筆記用具 授業プリント 教科書(公民・歴史) 資料集(公民・歴史) ワーク(歴史:昨年度の続き) 色鉛筆
学習の目標	(1) 民主政治の意義と経済活動との関わり, 国際関係等について, 社会との関わりを中心に理解を深めるとともに, 諸資料から情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2) 現代の社会生活と関連付けて考察したり, 現代社会に見られる課題について思考・判断したことを説明したり, それらを基に議論したりする力を養う。 (3) 社会に関わろうとする態度を養うとともに, 深い理解を通して, 主権を尊重し, 国民が協力し合うことの大切さについての自覚等を深める。 (4) 近代から近現代の歴史の大きな流れを, 各時代の特色を踏まえて理解するとともに, 諸資料から歴史に関する様々な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (5) 歴史に関わる事象の意味や意義に着目して考察したり, 歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて判断したりする力, 思考・判断したことを説明したり, それらを基に議論したりする力を養う。		
学習の進め方	<学習の進め方> (1) 社会では, 公民と歴史の2つの分野について学習する。社会の授業は週に4時間あり, 公民は週3時間、歴史は週1時間で進める。 (2) 授業は, 各クラスの教室で行う。 (3) 提示された課題を的確に把握し, 自分の考えをもつようにする。 (4) グラフの読み取りや様々な作業に対して多面的に観たり考えたりする意識をもつ。 (5) 他の人の意見と自分の意見や考え方の違いに気付き, 様々な見方や考え方があることを知る。 (6) 授業で学習したことや配られたプリントを見直し, 復習する。 (7) 日々のニュースに注目し, 学習内容と結び付ける意識をもつ。 (8) 授業内レポートがあるときには提出する。 <注意すること> (1) 授業開始の時刻までに準備を終え, 着席する。 (2) 持ち物を忘れないようにする。 (3) 板書されたことや友達の意見は配布されたプリントに書き込む。 (4) 先生の話や友達の発表をしっかりと聞く。 (5) プリントは配られたらファイリングし, なくさないように管理する。		

学習計画

	月	学習単元(歴史分野)	学習内容(歴史分野)	学習単元(公民分野)	学習内容(公民分野)
一学期	4	近代国家の歩みと 国際社会 二度の世界大戦と日本	アジアの強国の光と影	私たちの暮らしと現代社会	・現代社会と伝統文化、 公正なルール
	5		第一次世界大戦と 民族独立の動き	個人を尊重する日本国憲 法	・成り立ちと国民主権 ・基本的人権
	6				
	7		高まるデモクラシー の意識		・平和主義
二学期	8	現在に続く日本と世界	戦争に向かう世論	私たちの暮らしと民主政治	・民主政治と日本の政治
	9				・三権分立
	10		第二次世界大戦の惨禍	私たちの暮らしと経済	・地方自治と住民参加 ・消費生活と経済活動
	11		敗戦から立ち直る日本		・企業の生産と労働 ・市場の仕組みと働き
	12				・金融と財政
三学期	1		世界の多極化と 日本の成長	国際社会に生きる私たち	・社会保障と経済問題 ・国際社会の平和 ・国際社会の課題
	2		これからの日本と世界		
	3			私たちが未来の社会を築く	・持続可能な未来の社会へ

評価の観点と評価方法

評価の観点及びその趣旨		評価方法
知識・技能	個人と社会の関わりを中心とする公民的分野の学習内容や、歴史の流れを理解するとともに、調査や資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	・定期考査 ・小テスト ・単元ワークシート 等
思考・判断・表現	多面的、多角的考察によって、課題解決に向けて公正に選択・判断する力や、思考・判断したことを説明したり、議論したりすることができる。	・定期考査 ・小テスト ・授業内文章問題 ・ディベート 発表(原稿内容含む) 等
主体的に学習に取り組む態度	学習内容に関心を持ち、より良い社会の実現を視野にそこで見られる諸課題を、学習内容を生かして主体的に追求・解決しようと粘り強く考えようとしている。	・授業観察 ・単元ワークシート ・テスト振り返り ・ディベート 発表内容 等

数 学

使用教材	教科書 未来へひろがる 数学3(啓林館) 副教材 数学レポート学習3 東京都BEST(プレテスト)	持ち物	筆記用具 教科書 副教材(問題集) ファイル(A4・自由) 定規 (コンパス)
学習の目標	(1)数量や図形等についての基礎的な概念や原理・法則等を理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けようとする。 (2)数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形等の性質を見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。 (3)数学的活動の楽しさや数学の良さを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。		
学習の進め方	<学習の進め方> (1)2クラス3展開(コースは「応用発展」、「基礎充実1」、「基礎充実2」)の習熟度別少人数授業を行う。 (2)授業は、各クラスの教室と少人数教室(2階)で行う。コース発表の用紙に記載するので、確認して、自分の教室に行く。 (3)授業の進め方は自由進度学習とする。 (4)数学では答えにたどり着くまでの過程が大切である。途中式は消さないようにする。また、自分の考えを大切にし、どのように考えたのか他の人にも説明できるようにする。 (5)1つの問題の解き方にいろいろな考え方があるので友だちの意見にも耳を傾ける。 (6)数学は似た問題を数多く解くことで、理解が深まる。問題集等を使って復習をする。 <注意すること> (1)授業開始の時刻までに準備を終え、着席する。 (2)持ち物を忘れないようにする。 (3)配られたプリントは必ずファイルに閉じる。 (4)单元ごとに振り返りシート等の課題を出す。作成するときに困らないよう、大事だと思ったことはノートやワークシートに書き残す。		

学習計画

	月	学習単元	学習内容
一学期	4	1章 式の展開と因数分解	1節 式の展開と因数分解 2節 式の計算の利用
	5	2章 平方根	1節 平方根
	6		2節 根号をふくむ式の計算 3節 平方根の利用
	7	3節 二次方程式	1節 二次方程式 2節 二次方式の利用
二学期	8	4章 関数 $y=ax^2$ ※	1節 関数 $y=ax^2$ とグラフ
	9		2節 関数 $y=ax^2$ の値の変化
	10		3節 いろいろな事象と関数の利用
	11	5章 図形と相似	1節 図形と相似 2節 平行線と線分の比
	12		3節 相似な図形の計量 4節 相似の利用
	12	6節 円の性質	1節 円周角と中心角 2節 円の性質の利用
三学期	1	7章 三平方の定理	1節 直角三角形の3辺の関係 2節 三平方の定理の利用
	2	8章 標本調査とデータの活用	1節 標本調査
	3	3年間のまとめ	中学校3年間での学習内容の総復習

※ x^2 は2乗を表しています。

評価の観点と評価方法

評価の観点及びその趣旨		評価方法
知識・技能	数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	・定期考査 ・小テスト ・単元テスト ・課題の記述内容
思考・判断・表現	数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察したり、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現したりすることができる。	・定期考査 ・小テスト ・単元テスト ・課題の記述内容
主体的に学習に取り組む態度	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。	・課題の記述内容(目標設定や振り返り等) ・学習の振り返り等の記述内容

理 科

使用教材	【教科書】 未来へひろがるサイエンス3(啓林館) 【副教材】 ・理科の完全学習3年 ・理科 積み上げ3年	持ち物	・教科書 ・理科の完全学習 ・筆記用具 ・ノート ・ファイル ・chromebook
学習の目標	(1)自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験等に関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2)観察、実験等を行い、科学的に探究する力を養う。 (3)自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。		
学習の進め方	<学習の進め方> (1)理科では、生命、地球、物質、エネルギーの4つの分野について学習する。 (2)授業は、各クラスの教室もしくは理科室で行う。連絡は先生から理科係を通して行う。 (3)提示された課題を的確に把握し、自分の考えをもつようにする。 (4)話し合い活動をする場面では他の人の意見を聞き、課題を多面的に観たり考えたりする意識をもつ。 (5)理科室では、3～4人班での観察や実験を行う。安全かつ正確に行えるように、班員で協力して行う。 (6)授業で学習したことや配られたプリントを見直し、復習をする。 (7)学習内容と日常生活の中で起こる様々な自然現象を結び付ける意識をもつ。 <注意すること> (1)授業開始の時刻までに準備を終え、着席する。 (2)持ち物を忘れないようにする。 (3)板書されたこと、気づいたこと等はノートにまとめる。 (4)先生の話や友達の発表をしっかりと聞く。 (5)実験レポート、ワーク等の提出は期限を守る。		

学習計画

	月	学習單元	学習内容
一学期	4	【生命】○生命の連続性 ・生物の成長と殖え方	- 細胞分裂と生物の成長 - 細胞分裂と生物の成長 - 水溶液にすると電流が流れる物質 - 電解質の水溶液に電流が流れたときの変化 - 電気を帯びた粒子の正体 - 金属のイオンへのなりやすさ - 電池のしくみ - 日常生活と電池 - 酸性やアルカリ性の性質を決めているもの - 酸性やアルカリ性の水溶液の性質 - 酸性、アルカリ性の強さ - 酸とアルカリを混ぜたときの変化 - イオンで考える中和 - 水中の物体に働く力 - 力の合成 - 力の分解 - 運動の表し方 - 水平面上での物体の運動 - 斜面上の物体の運動
	5	・遺伝の規則性と遺伝子 【物質】○化学変化とイオン	
	6	・水溶液とイオン ・電池とイオン ・酸・アルカリと塩	
	7	【エネルギー】○運動とエネルギー ・力のつり合いと合成・分解 ・物体の運動	
二学期	8	【生命】 ・生物の種類の多様性と進化 【エネルギー】 ・仕事とエネルギー ・多様なエネルギーとその移り変わり ・エネルギー資源とその利用 【地球】○宇宙を観る ・地球から宇宙へ ・太陽と恒星の動き	- 生物の殖え方 - 遺伝の規則性と遺伝子 - 生物の種類の多様性と進化 - 物体間での力のおよぼし合い - 仕事 - エネルギー - 位置エネルギーと運動エネルギー - エネルギーの種類 - エネルギーの変換と保存 - 熱の移動 - 生活を支えるエネルギー - エネルギー利用上の課題 - エネルギーの有効利用 - 地球、月、太陽 - 太陽系・宇宙の広がり - 太陽の動き - 星座の星の動き
	9		
	10		
	11		
	12		
三学期	1	【地球】 ・月と金星の動きと見え方	- 月の動きと見え方 - 金星の動きと見え方 - 生物どうしのつながり - 生態系での生物の数量的関係 - 生物の遺骸のゆくえ - 生物の活動を通じた物質の循環 - 天然の物質と人口の物質 - プラスチック - 科学技術の発展の歴史 - 科学技術の利用とくらし - 身近な自然環境の調査 - 自然が人間の生活におよぼす影響 - 人間の活動と自然環境 - 科学技術の発展と課題
	2	【環境】○自然と人間 ・自然界のつり合い ・さまざまな物質の利用と人間	
	3	・科学技術の発展 ・人間と環境	

評価の観点と評価方法

評価の観点及びその趣旨		評価方法
知識・技能	自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則等を理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験等に関する基本操作や記録等の基本的な技能を身に付けている。	- 実験レポート - 授業観察 - ワークシート・プリントの記述 - 小テスト - 定期考査 - パフォーマンステスト
思考・判断・表現	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験等を行い、得られた結果を分析して解釈し、表現する等科学的に探究している。	- 実験レポート - ワークシート・プリントの記述 - 小テスト - 定期考査
主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりする等、科学的に探究しようとしている。	- 授業観察 - ノート等の記述 - ワークシート・プリントの記述 - 学習の振り返り - 実験レポート

音 楽

使用教材	教科書 ①中学生の音楽2・3年下 ②中学生の器楽(教育芸術社) 副教材 ①コーラスフェスティバル(合唱曲集)(正進社) ②表現と鑑賞の資料(正進社) ③教科担任作成のプリント等	持ち物	①音楽の教科書 ②器楽の教科書 ③コーラスフェスティバル(合唱曲集) ④資料集 ⑤ソプラノリコーダー ⑥ファイル ☆①～⑥を音楽袋に入れて持参
学習の目標	(1) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を高め、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる。 (2) 多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、表現の技能を伸ばし、創意工夫して表現する能力を高める。 (3) 多様な音楽に対する理解を深め、幅広く主体的に鑑賞する能力を高める。		
学習の進め方	【学習の進め方】 ①音楽の授業には、「歌唱」「器楽」「鑑賞」「創作」の4つの柱がある。 「器楽」はソプラノリコーダーと和楽器(和太鼓、箏)、「創作」は基本となる音符や休符を理解し、1、2年次のリズム学習を生かして簡単な作曲をすることを目標としている。 ②授業は特別なことがない限り音楽室で行う。 ③その日の「学習の目当て」を理解し、一生懸命に取り組む。 ④ワークシートを使った授業では、書き込みの工夫等、どのように授業を受けていたかを評価する部分もあるので、意識して取り組む。 ⑤読み取り学習は、作者の思いや詩の理解、音楽を形づくっている要素を知覚し、自分の意見を文章で表現することを求めている。学習の前に楽曲の理解に努めることも大切なことである。 ⑥合唱におけるパート練習は、曲の完成だけでなく、パートやクラスの協力性や一体感に繋がるのでしっかり取り組む。 ⑦一生懸命取り組んで、1時間の授業の中で何ができたのか、課題は何なのかを点検表をとおして振り返る。 ⑧「自分を表現すること」はとても大切に、評価の重点項目になっている。また、音楽の授業以外にも役立つことなので、積極的に取り組む。 【注意すること】 ①授業に必要な持ち物は、特別なことがない限り変わらないので、忘れないように準備する。 忘れた場合は、申し出て先生から借りる。 ②先生の話や指示をしっかりと聞き、正しく理解して行動に移す。 ③提出物は期限を守って提出する。 答え合わせした時に間違っていたものは赤で直し、空欄は赤で書き込む。 自分ができなかったところをはっきりさせて、後の学習に役立てる。 ④インターネットを利用した調べ学習等は、著作権に関してはもちろんだが、そのまま写して自分の感想にしたりすることがないように十分に注意する。 ★理解に役立つようオレンジ色のペンで書き込む場合は、上記を工夫する方法を考える。		

学習計画

	月	学習単元	学習内容
一学期	4	・音楽と情景の関わり (日本の歌曲:心の歌)	・「花」
	5	・日本の伝統音楽	・箏について(鑑賞と体験)
	6	・創作の工夫	・リズムゲーム(創作)
	7	・音楽の基礎を学ぶ	・合唱形態、楽典(総復習)
二学期	8	・心かよう合唱	・合唱コンクールに向けて
	9	・曲想や歌詞を生かした 合唱表現の工夫	3部合唱
	10	・音楽の応用	・楽典(表現)
	11	・国民楽派の音楽とオーケストラ の響き	・「ブルタバ」(スメタナ)(鑑賞)
	12	・音楽と情景の関わり(日本の歌 曲:心の歌)	西洋音楽史 ・「花の街」
三学期	1	・世界の名曲、楽器に 触れ感じ取る	・「レクイエム」「革命」他
	2	・音楽と情景の関わり(日本の歌 曲:心の歌)	ポピュラー音楽、諸民族の音楽
	3	・曲想や歌詞を生かした 合唱表現の工夫	・「早春賦」
	3	・音楽の約束	・卒業式に向けて 3部合唱
		・創作の工夫	君が代 著作権 簡単な曲作り(マイ メロディ)

評価の観点と評価方法

評価の観点及びその趣旨		評価方法
知識・技能	・曲想と音楽の構造や背景等と関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を歌唱、器楽、創作で身に付けている。	・授業観察、内容の習得 ・実技(途中経過含む) ・実技テスト ・定期考査
思考・判断・表現	・音楽を形づくっている要素等を知覚している。 ・特質や雰囲気を感じながら考え、どう表すかについて思いや意図をもったり、音楽の良さを味わって聴いたりしている。	・授業観察、発言・記述の内容 ・ワークシート、読み取り学習の内容、工夫 ・実技(途中経過含む) ・実技テスト ・点検表(振り返り)の記述 ・定期考査
主体的に学習に取り組む態度	・音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 ・他者に助言したり他者からの助言を参考にしたりしながら身に付けようとしている。 ・課題に対して適切に粘り強く取り組み提出、終了している。 ・顔の体を表情をよくし、体を使った表現にしよう、グループで話し合っ工夫しているか。 ・自分の演奏の中で、「できたこと」「次回の課題」がしっかり振り返ることができている。他のグループの演奏を聴いて感想を伝えたりしている。	・授業観察 ・提出物の内容 ・ワークシートの内容、工夫 ・点検表(振り返り)の記述内容

美術

使用教材	教科書 美術2・3上下(日本文教出版)2冊 副教材 美術資料／東京の美術(秀学社)	持ち物	・美術バッグ(教科書2冊、資料集、スケッチブック、アクリルガッシュセット) ・筆記用具
学習の目標	(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表すことができるようにする。 (2) 自然の造形や美術作品等の造形的な良さや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能性と洗練された美しさとの調和、美術の働き等について独創的・総合的に考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 (3) 主体的に美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を深め、心豊かに生活を創造していく態度を養う。		
学習の進め方	<学習の進め方> (1) 美術では、「表現」と「鑑賞」の学習がある。「表現」は自分で感じたことや考えたことを色や形にして、作品として表すことである。 「鑑賞」は、作品をじっくりと見て、良さや美しさを感じ、自分の言葉で表すことである。 (2) 授業は「美術室」で行う。持ち物の連絡等は授業でも伝えるが、基本的には美術係を通して行う。 (3) 作品制作(表現)では課題の条件を理解し、自分で感じたことや考えたことをもとに構想を練り、制作する。 (4) 制作の前や途中に、参考作品や友達の作品を鑑賞することがある。また、制作のまとめとして最後にお互いの作品を鑑賞する時間を設ける。 (5) 授業内で仕上げられるように見通しをもつ。 (6) 美しいものや機能的なものの良さに気付き感動する心を大切にする。生活の全てが「美術」につながっている。 <注意すること> (1) 授業開始の時刻までに準備を終え、着席すること。 (2) 1時間1時間、集中して取り組むこと。積み重ねが大事である。 (3) 作品の評価は、完成作品と途中作品で行う。未完成でも期日で評価する。計画時間内で完成させること。 (4) 友達を大切にするように、作品も大切に扱うこと。 (5) 机や道具はきれいに片付けること。		

学習計画

	月	学習単元	学習内容
一学期	4	オリエンテーション	・木彫の技法を習得する ・さまざまな彫り方を創意工夫して作品制作する
	5	木彫時計 作品鑑賞	・木彫時計の作品鑑賞 ・篆刻の歴史について学ぶ
	6	篆刻(印面づくり) 定期考査	・篆書体を用いて自分の名前を印面に彫刻する ・近現代の抽象彫刻を学ぶ
	7	篆刻(印面づくり)	
二学期	8		・京都・奈良修学旅行の事前学習
	9	仏像鑑賞	・仏像、仏像製造方法について学ぶ
	10	篆刻(鈕づくり) 篆刻(鈕づくり)	・篆刻印の「持ち手」部分に抽象彫刻を施す ・篆刻の作品鑑賞
	11	篆刻(鈕づくり) 定期考査	
	12	篆刻(鈕づくり) 作品鑑賞	
三学期	1	水墨画	・水墨画の世界について学ぶ ・水墨画の技法を使って動物を表現する(筆のタッチや技法を工夫する)
	2	水墨画 定期考査	・現代美術について学ぶ
	3	現代美術鑑賞 作品鑑賞	・水墨画の作品鑑賞

評価の観点と評価方法

評価の観点及びその趣旨		評価方法
知識・技能	・構図や顔の角度、表情やしぐさ、背景や色彩等が感情にもたらす効果や造形的な特徴を基に自分の印象等を全体のイメージで捉えることを理解している。 ・材料の特性を生かし、意図に応じて表現方法を創意工夫して創造的に表している。	・授業観察 ・作品（途中作品含む） ・アイデアスケッチ等の下絵 ・定期考査
思考・判断・表現	・構図や表情等の効果を考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。 ・造形的な良さや美しさを感じ取り作者の心情や表現の意図と創造的な工夫について考える等して、美意識を高め見方や感じ方を深めている。	・授業観察 ・作品（途中作品含む） ・アイデアスケッチ等の下絵 ・定期考査
主体的に学習に取り組む態度	・美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に感じ取ったことや心の内面等を基に構想を練り、構図や表情等意図に応じて表現方法を創意工夫して創造的に表したりする表現活動や鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	・授業観察 ・授業中に制作した作品や提出物について記述した制作カード（鑑賞の場合は、振り返りカード）

保健体育

使用教材	教科書 新しい保健体育(東京書籍) 資料集 図解中学体育(あかつき)	持ち物	体育着 体育館履き 各種目に応じた持ち物
学習の目標	①各種の運動の特性に応じた技能及び個人生活における健康・安全について理解する。 ②運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 ③生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。		
学習の進め方	ランニング 体操 挨拶 授業の流れやめあてを確認 実技指導 片付け まとめ 解散		

学習計画

	月	学習単元	学習内容
一学期	4	体づくり運動	体ほぐしの運動 体力を高める運動
	5	陸上競技	短距離走・リレー
	6	器械運動	マット運動
	7	球技	ネット型
	7	保健	環境と健康
二学期	8	体育理論	現代社会におけるスポーツの文化的意義
	9	水泳	4泳法・ターン・長距離泳
	10	球技	ベースボール型
	11	陸上競技	中・長距離走
	12	球技	ネット型
三学期	1	保健	環境と健康・健康な生活と疾病の予防
	2	体育理論	国際的なスポーツ大会の役割
	3	ダンス	現代的なリズムのダンス
	3	球技	ネット型・ゴール型
	3	保健	健康な生活と疾病の予防
	3	体育理論	人々を結びつけるスポーツ

評価の観点と評価方法

評価の観点及びその趣旨		評価方法
知識・技能	運動の意義や効果と学び方や安全な行い方についての考え方を理解し、知識及び技能を関連付けながら運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。	学習カード 授業プリント 実技試験 定期考査 授業内観察
思考・判断・表現	自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて取り組み方や工夫をしているとともに、それらを他者に伝えている。	学習カード レポート 授業プリント 定期考査 話し合い 発表 授業観察
主体的に学習に取り組む態度	健康・安全に留意しながら、最善を尽くして学習に取り組もうとしている。公正、協力、責任、一人一人の違いを大切にしようとする等の意欲が見られる。	学習カード 活動の様子 行動の観察 安全に留意している

技術・家庭

使用教材	教科書 新しい技術・家庭 副教材 技術・家庭総合ノート「家庭科分野」	持ち物	筆記用具 教科書 技術・家庭総合ノート「家庭科分野」
学習の目標	【技術分野】 (1)情報通信ネットワークの構成や仕組みを理解し、安全・適切なプログラミングができる。 (2)生活や社会に果たす役割や影響に基づいた情報の技術の概念の理解ができる。 【家庭分野】 (1)家族・家庭生活又は地域の生活の営みに係わる見方や考え方ができる。 (2)幼児のおもちゃ作りを通して、幼児との関わり方を考え、家族関係をよりよくする方法を考えることができる。 (3)消費生活・環境について課題を設定し、環境に配慮した消費生活を考え工夫し実践できる。		
学習の進め方	<学習の進め方> 【技術分野】 (1)3年生では情報の分野について学習し、作業が中心になる。 (2)授業は、技術室(金工)で行う。 (3)技術室では、3～4人班での作業を行う。安全かつ正確に行えるように班員で協力する。 【家庭分野】 (1)3年生は、幼児の生活と家族・消費生活と環境の分野の学習をし、幼児や高齢者との関わり方を学習し、家族との関わりを振り返り、課題解決、自立へと実践力を身につける。おもちゃ作りを行い、幼児へのイメージもち、幼児の反応を予測しながら幼児に関心を深める。 (2)授業は、教室、被服室、調理室で行う。 (3)実習は、3～4人班で行う。安全に留意し実習を進める。教え合い、学び合うことを取り入れ、学習を展開する。 (4)配られたプリントは、ファイルに保管しワークとともに、定期考査前には見直し、復習をする。 <共通 注意すること> (1)授業時数が少ないので、毎時間の授業に集中する。 (2)授業開始の時刻までに準備を終え、着席する。 (3)持ち物を忘れないように気を付ける。 (4)板書されたこと、気付いたこと等はノートやファイルにまとめる。 (5)先生の話や友達の発表をしっかりと聞く。 (6)作品やプリント等の提出は期限を守る。		

学習計画

	月	学習単元(技術分野)	学習内容(技術分野)	学習単元(家庭分野)	学習内容(家庭分野)
一学期	4	情報 ・計測制御の プログラミング	・信号機や電気機器 を制御するプログラ ムの働きを知る。 ・テーマに沿ったプ ログラム構想	○私たちの成長の 生活と家族	・幼児の体・心の発 達 ・幼児の生活習 ・幼児の遊びとおも ちゃ作り ・幼児のおやつ作り
	5				
	6				
	7				
二学期	8	・双方向ネットワーク 学習	・テーマに沿ったプロ グラミング ・双方向ネットワーク 学習 ・グループ学習（プレ ゼン）	○私たちの成長と家 族 ○これからの家族と地 域	・幼児のおやつ作り ・幼児の遊びとおも ちゃ作り ・幼児との関わり方 ・さまざまな子育ての 場 ・家族と地域の関わり ・高齢者との関わり
	9				
	10				
	11				
	12				
三学期	1	まとめ	・4つの項目を横断 的に考え、持続可能 な社会、SDGsと 結び付け考える	私たちの消費生活と 環境	・消費者としての自覚 ・購入方法と支払い方法 ・計画的な金銭の管理 ・消費者トラブルと対策 ・消費者の権利と責任 ・持続可能な社会
	2				
	3				

評価の観点と評価方法

評価の観点及びその趣旨		評価方法
知識・技能	生活や技術に関する知識や工具の 使用法について理解し、安全に正し く使用する力を身に付けている。	・課題、作品 ・プリント、ノート ・授業観察 ・定期考査・小テスト
思考・判断・表現	身の回りの生活や社会からの課題を学 び得た知識や技能を活用して主体的 に課題を設定し、解決策を表現する等 課題を解決する力を身に付けている。 学習過程の場面を捉え、自分の考え等 を道筋を立てて、分かりやすく説明出 来る。	・課題・作品 ・プリント、ノート ・作業記録 ・定期考査 ・プレゼン
主体的に学習に 取り組む態度	生活や技術に関する知識・技能を 身に付け、生活を充実向上するた めに主体的に実践しようとしている。	・振り返りシートの記述 ・プリント、ノート(目標設定と学習の 振り返り等) ・授業観察

英 語

使用教材	教科書 NEW CROWN3 (三省堂) 副教材 ジョイフルワーク③(新学社) 3年間の英語ぎゅぎゅっと総まとめ 学習の達成 模擬トレ5	持ち物	筆記用具 教科書 ノート ジョイフルワーク ファイル battles with yourself
学習の目標	(1) 外国語の音声や語彙, 表現, 文法, 言語の働き等を理解するとともに, これらの知識を, 聞くこと, 読むこと, 話すこと, 書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。 (2) コミュニケーションを行う目的や場面, 状況等に応じて, 日常的な話題や社会的な話題について, 外国語で簡単な情報や考え等を理解したり, これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。 (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め, 聞き手, 読み手, 話し手, 書き手に配慮しながら, 主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。		
学習の進め方	《教科書》 教科書は, それぞれのLessonごとに新出の文法事項, 単語を学ぶ。また, 本文の理解を通して, 異文化理解を深めるとともに, 自国との違い等にも触れていく。リスニングセクション, リーディングセクション, スピーチセクション, カンバセーションセクション等様々なシチュエーションで4技能を学ぶ。 《ノート》 各自で用意して, 授業内で学習した項目を理解するために使う。ただ, 黒板を写すというノートの取り方から, 自分なりにポイントを絞ってノートをとることを心がけていく。また各Lessonが終わった時点で, その単元で何を学び, どのように活用していくかを自分なりにまとめる「まとめレポート」を作成するときに活用する。 《battles with yourself》 前単元で既習の単語25問の単語テストを, 授業毎冒頭に行う。同じものを4回行い, 4回目の点数を知識技能の観点で評価する。 《ワークシート》 各partの文法事項をまとめたプリントが用意される。授業では共通の文法事項, 重要表現, 練習問題に触れることで, 全員が共通の内容を理解することができる。 《ジョイフルワーク》 授業で習った内容の理解を深めるために使う。特に定期考査に向けての自学用で, 個人で進めていく。 《ぎゅぎゅっと総まとめ》 3学年の学習と並行して, 1, 2年生の学習内容を復習していく。 《模擬トレ5》 3年間の学習のまとめに使用する。全5回分を学習状況に合わせて行っていく。		

学習計画

	月	学習単元	学習内容
一学期	4	Lesson1	ようこそ写真部へ 現在完了形
	5	Lesson2	音楽のある毎日 現在完了進行形
	6	Lesson3	平和学習 受身表現
	7	Lesson4	インドの映画を見よう 分詞構文、後置修飾
二学期	8	Lesson5 Lesson6 Lesson7 Lesson8	漫画アニメ 関係代名詞主格
	9		公平とは 関係代名詞目的格
	10		デザインの力 仮定法
	11		新たな旅立ち 間接疑問
三学期	1	3年間の総まとめ 模擬トレ Project	文法事項・単語・熟語・長文読解・英作文
	2		入試に向けた勉強
	3		ディスカッション

評価の観点と評価方法

評価の観点及びその趣旨		評価方法
知識・技能	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働き等を理解している。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働き等の知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けている。	・定期考査 ・単語テスト ・単元テスト ・即興英会話テスト ・パフォーマンステスト
思考・判断・表現	獲得した知識、技能を用いて、自分なりに表現したり、伝え合ったり、概要や要点を捉えたりしている。	・定期考査 ・パフォーマンステスト ・即興英会話テスト ・単元テスト
主体的に学習に取り組む態度	自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤する等自らの学習を調整しながら、主体的に学ぼうとしている。	・定期考査解きなおしシート(自分がなぜ間違えたのか、なぜ正しい答えはそうなるのか等を分析させる。また、解きなおしする問題の選択は自由とし、粘り強さを評価する。) ・Review sheet(目標設定と振り返り) ・授業内ワークシート ・パフォーマンステスト